

# 乳頭から黄斑までを Spectralisで

日時 2017年9月29日(金) 18:00~19:00

会場 第3会場(リーガロイヤルホテル広島 4F クリスタル)



座長

新家 眞先生(関東中央病院)

Heidelberg Engineering社のSpectral-Domain Optical Coherence Tomography (SD-OCT) 機Spectralisは、その測定再現性\*及び得られる画像の質が現在市販されているSD-OCT機中最も優れている物の一つである事は、異論の無い所だと思います。現在緑内障診断における視神経乳頭(OH)部における基準位置は、臨床的な(写真上の)視神経乳頭縁からBruch's membrane opening (BMO) 縁に移りつつありますが、そのSD-OCTによるBMO縁同定の先鞭をつけたのもSpectralisでした。但し他社のSD-OCT機では、既に備えられている黄斑部網膜各層の正常人厚さのNormative dataが備えられていないのが緑内障診断に本機を使用しようとする時の欠点であった事は否めません。

今回、待望のSpectralisによる正常人黄斑部網膜各層厚さの正常人Normative dataの解析が終わり、まもなくDatabaseがリリースされる予定となっています。これにより本機の緑内障診断研究での有用性は大きく前進したのではないのでしょうか。Chauhan先生には、そのSpectralisによる正常人黄斑部網膜各層の厚さについての本邦初の披露をして戴く事になりました。加えて日本人に於けるBMOを中心とする各種パラメーターの詳しい解析結果を岩瀬愛子先生に、Spectralisの緑内障診断の為のプログラム(GMPE)の実際とその使い勝手を大久保真司先生にお話し戴く機会を設ける事ができました。

どうぞ奮ってご参加の上、日本緑内障学会のタベを有意義なものとしてくだされば幸いです。

\*: Araie M. Test-retest variability in structural parameters measured with glaucoma imaging devices. Jpn J Ophthalmol 2013;57:1-24.



演者 1

**Segmented retinal thickness in the normal macula**

Dr. Balwantray C. Chauhan (Dalhousie University)



演者 2

**Bruch's membrane opening (BMO) を基準とした視神経乳頭解析について。  
日本人Normative data baseでの検討**

岩瀬 愛子 先生(たじみ岩瀬眼科)



演者 3

**乳頭も黄斑も緑内障プレミアムソフトウェアGMPEで!**

大久保 真司 先生(おおくぼ眼科クリニック・金沢大学)